

平成26年度公共事業再評価諮問地区「継続」理由書等

(課名： 河川砂防課)

<p>事業名 (路河川等名)</p>	<p>河川整備交付金事業(社会資本整備総合交付金：総合流域防災事業)(西田川)</p>
<p>継続理由</p>	<p>西田川は鳥栖市の新興住宅地を貫流し、JR鹿児島本線と並行して流下した後、筑後川の26.3km地点に合流する河川である。下流の約1km間は、昭和49年より局部改良工事を行い、確率1/5規模での改修を実施していたが、上流は未改修であり、平成7年7月、平成11年6月、平成13年7月、平成21年6月と毎年のように浸水被害が生じている。</p> <p>このため、抜本的対策として、河道拡幅、掘削、築堤等を行い、治水安全度を向上させ、流域の浸水被害の解消を図ることとしている。</p> <p>平成25年度末までの進捗率は約24%(事業費ベース)となっている。</p> <p>地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。</p> <p>地域住民の安心・安全を確保するためには当事業の継続が必要である。</p>
<p>B/Cの 算出方法</p>	<p>総便益(B)は治水施設の整備による整備水準以下の年平均被害軽減額を対象期間分足したもの。</p> <p>総費用(C)は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分足したもの。</p> <p>(※対象期間=整備期間+施設完成後50年間。)</p> <p>総便益額(現在価値化した総便益) B = 12,141 百万円</p> <p>総費用額(現在価値化した総費用) C = 4,411 百万円</p> <p>B/C=2.8 ※費用対効果</p>
<p>備考</p>	

平成 26 年度再評価対象事業 (事業採択後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課)	備考
13	西田川 河川整備交付金事業 (社会資本整備総合交付金：総合流域防災事業)	河道拡幅、掘削、築堤等を行い、治水安全度を向上させ、流域の浸水被害の軽減を図る。 計画流量 45m ³ /s 計画治水安全度 1/30	全体事業費：C=39.9億円 工期：H16~H30 改修延長：L=2,540m 計画流量：45m ³ /s 計画治水安全度：1/30 事業内容：掘削・築堤 護岸、樋管11基、樋門1基、橋梁11基、物件補償27件	筑後川合流点から改修を進め、二号橋から七号橋までの区間で暫定河川改修が完了している。 現在、中流部の掘削、護岸工事を実施し、上・下流部の用地買収の促進を図っているところである。 道路橋 5基完成 (H25末進捗率 24%) (年平均進捗率 2.4%)	(過去の災害実績) H7.7 浸水戸数 83戸 浸水面積 12.6ha H11.6 浸水戸数 11戸 浸水面積 11.0ha H13.7 浸水戸数 1戸 浸水面積 14.9ha H21.6 浸水戸数 1戸 浸水面積 110.1ha (地域の状況) 上流部の西田、儀徳町、あさひ新町の宅地化が進んでいる。 九州新幹線が開通した。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果を算出した。 ・総便益 (一般資産被害額・農作物被害額・公共土木施設等被害額等) B=12,141百万円 ・総費用額 C=4,411百万円 ・現在 (B/C) 2.8	(コスト削減策) ・護岸の裏込材や堤防天端の採石散布に再生クラッシュランを積極的に利用する。 ・掘削土を堤防盛土へと有効活用する。	事業着手後10年が経過	九州新幹線開通による地域振興、宅地開発が進行するものと考えられる。 地域住民の安心・安全を確保するためには当事業の継続が必要である。	

